

国際頭痛分類

第2版 新訂増補日本語版

日本頭痛学会・国際頭痛分類普及委員会 ● 訳

岩手医科大学教授神経内科教授 寺山 靖夫

第11回国際頭痛学会 (International Headache Society: IHS, Rome, Italy, 2003) における国際頭痛分類第2版 (ICHD-II) の発表を受け、日本頭痛学会 (坂井文彦理事長) では、新国際分類普及委員会 (間中信也委員長) を中心として日本語化に取り組んできた。本書は15年ぶりに改訂されたこのICHD-IIの系統的、合理的な分類の翻訳版であると同時に詳細な解説を加えた188頁の大作である。初期の翻訳版は日本頭痛学会誌 (31巻1号, 2004年) と日本頭痛学会ホームページ (<http://www.jhsnet.org>) 上に掲載され、会員からはさまざまな批評と意見が寄せられた。これらの批評と意見をもとに加筆訂正が加えられ、Blackwell社との著作権交渉も完了し「国際頭痛分類第2版 新訂増補日本語版」としてこの度、医学書院から刊行されるに至った。

原著のICHD-IIにみられた参考文献の誤りと引用形式の不統一に修正が加えられ、初期の翻訳版にみられた訳語と表現の不均一性が修正され、非常に理解しやすいものとなっており、極めて完成度の高い日本語版である。

本書では、ICHD-IIによる、一次性的頭痛 (第1部)、二次性頭痛 (第2部)、および頭部神経痛・顔面痛・その他 (第3部) の分類に先立ち、世界保健機関 (WHO) の国際疾病分類第10版・神経疾患群 (ICD-10NA) コード対照表が掲載されていることと、さらに巻末には、ICHD-IIの発表後も数回改訂が加えられた「慢性片頭痛」と、「薬物乱用頭痛」に関する解説が掲載されていることが特徴である。新訂増補日本語版という所以がここにある。

初期翻訳版からわずか3年の間にこれほど完成度の高い日本語版が刊

行されたことは驚嘆に値するものであり、翻訳関係者に敬意を表する。

本書は頭痛発作の分類と診断基準を1冊にまとめ、一般社会で頭痛を取り上げる場合から頭痛の研究者が扱うレベルまで、あらゆる頭痛に詳細な診断基準を提示している。頭痛に関する新しいエビデンスや知見、初版に対する批判や意見を取り入れ厳密な改訂が行われた本書は、頭痛患者の診療にあたって、不可欠なものであることは間違いない。サイズもコンパクトなB5判であり、頭痛専門医に限らず、あらゆる臨床医の必携の書として推奨したい。

B5, 頁208, 2007年

定価5,250円

(本体5,000円+税5%)

[ISBN 978-4-260-00406-0]

医学書院刊

